



「令和3年度 青少年育成鳥取県民会議会長及び 青少年育成市町村民会議会長意見交換会」に出席して

芳村恵子

日時 令和3年 12月8日(水)13:30~15:00

場所 鳥取県立倉吉体育文化会館

常任委員の一人として、会議に出席させて頂いた。各市町村の取り組み状況はあらかじめメールで配信されていたので、会長のご挨拶の後、意見交換に入った。

ある地域では、推進指導員も充て職のため任期半ばで代わることもあり、組織として成り立ち難く、推進指導員の人数も減らしてはいけないかなど問題提起された。それに対し、コロナ禍で予定していた活動ができなかったところもある中、制約がありつつも工夫して実施したところから意見が出された。

まずは我々大人が子ども達との活動を楽しむことも必要であり、人口減少問題もあるので周りの地区と協力し合うのはどうか。

また、若桜町の青少年育成アドバイザーは、恒例の屋外での集団キャンプから体育館で段ボールで仕切ったソロキャンプ方式に変えて実施したこと。米子市は少人数だったが希望者にリーダー研修を行い、人づくりに繋がっていること。倉吉市は体験活動を縮小して3泊4日のセカンドスクールを実施したこと。北栄町は健全育成の啓発として「青少年を育む看板」の設置や「朝の元気配達便」という子ども達の声による呼びかけをしているなど、たくさんのユニークな実践を聞かせて頂き、各々市町村民会議の底力に感動した。

ところで驚いたこともあった。出席者の中には国民会議が無くなったこと、今は47都道府県中22の連合会として活動していることを知らない方があった。

それでも、日本中の全ての都道府県がそれぞれの要のもと、青少年の健全育成対策を実践している筈である。鳥取県も160以上の団体が、「青少年育成鳥取県民会議」の一員として子ども達の幸せな成長を願って活動している。

国民会議があった時と無くなってからと、私の活動内容に何か違いが生れているのだろうかと考えさせられた。国民会議に学び認定された「アドバイザー」の資格に誇りを持って、「鳥取県青少年育成アドバイザー」の私に依頼して下さる方々の思いに応えられるよう努力しているつもりである。年齢も気になりつつあるこの頃ではあるが、もうしばらく活動を続けたいと思っている。

2022年4月には、成年年齢が18歳になる。子ども達を取り巻く環境は良くも悪くも大きく変わる。鳥取県青少年健全育成条例を子ども達や親世代に啓蒙啓発される計画がなされているという。私達大人も、子ども達を守り育成する環境の一部であることを自覚して、変わりゆく生活や法を学ばなければならないと思った。



法人化に関する鳥アド会員意見 聞き取り

鳥アド会員から寄せられた意見です。皆さんの考えを共有するために、そのままを提示します。

回答があった項目だけ提示、()の数字は回答数、
*は鳥アド会員個人の意見

【1, 名称について】

・全日本青少年育成アドバイザー連合会 (5)

*法人化が決まってから決めれば良いのでは。名前はつけづらい。(1)

【2, 事務所について】

・従来どおり事務局長宅におく (5)

*資金力の状況次第だと思ふ (1)

【3, 職員について】

・従来通り事務局長に加え事務担当会員で事務処理をする(会計報告・税務申告など法的事務は税理士に依頼) (4)

*資金力の状況次第だと思ふ (1)

*金銭的なことが何も決まっていけないのに、決まってからで良いのでは。(1)

*経費の確保ができるまでは現状のままで。(1)

【4, 目的・事業】

・現在の規約を基本とし定款に合うように改正する (2)

【5, 会議について】

・現状の会議を基本とする:個人会員を設定する場合は総会に参加し発言・決定権も付与 (2)

・個人会員制:会員全てを総会出席対象とし・出席者による発言・決定権を持つ(この場合、各都道府県の会員数にあわせて代議員制度とし、総会成立人員を少数化) (2)

【6, 役員・任期などについて】

・現状の規約と同様:任期は1期2年、2期まで (2)

・法人化した場合、役員任期を長く設定する(変更登記が度々必要となるため)・再任は妨げない (1)

***わからない (1)**

【7, 会費について】

・会費は現状どおり:正会員(都道府県会長)5,000円、3号会員3,000円、2号会員0円) (2)

・現行を原則とするが、1号会員の会費値上げ(7,000円、10,000円、それ以上)2号会員の希望者は会費を納入し総会発言権・決定権を付与(会費1,000円、2,000円、3,000円、5,000円など) (1)

・賛助会員・特別会員(会員以外の運動支援者・企業)会費を募集・拡大し財源拡大を図る。・賛成(1)・反対(1)

【8, 財源確保について】

・収益事業を実施する (3)

***何らかの事業収益が必要 (1)**

・企業・団体会員(特別会員として)を獲得する (1)

・会費を上げる(1) ・いくらが適正かは分からない (1)

***このような活動ができる人財が何人いるのか? (1)**

【9, その他】

・法人化した場合の運営必要経費、事務費(職員・事務所借料)、法人税、税理士契約経費など安定的な確保が見通しできなければ、法人化しても継続できない。(3)

***その通りだと思う (1)**

***上記の事態が想定されるなら法人化しない方が良い (1)**

・法人化しなくても、活性化の為に会費の見直し・事業の再検討・新規事業の導入など、取り組み可能なことを検討することはアド運動の継続・発展の為に不可欠。(1)

***全日本アド連より鳥取県アド連の充実を図る。(1)**

・鳥取県アドとして、全日本アド連にどのような事業・役割を果たして欲しいか?その具体的な要望は?

***全国から研修会に講師派遣を又は紹介をして欲しい(財源をどうするか?) (1)**

***全日本アド連に期待はしていない。(1)**

・法人化した場合、新しい定款ができ、加入の意志表示が必要となったら、加入を継続するか?どのような場合になると加入を控えるか?

***現在、各個人が自分の活動で手一杯感がある。これ以上の事が要求されるので、そうなれば、鳥取県アド連自体が閉塞してしまう予感がする。(1)**

***会費や事業協力などが負担になると思うので、個人的には参加したくない。(1)**

・その他、自由にご意見をお聞かせください

***私にとっても鳥アドは勉強の場であり、情報交換の場であることが一番大きいと思っている。様々な形で子どもたちに関わりながら会委員の方々は既にそれぞれでフル活動を続けておられて、得るものが多く、刺激を受け、自分の活動にも生かしていくことができている。全国の視点を持つことが私には難しい。(1)**

***法人化することで団体の地位向上というものにつながるというイメージでとらえているが、それなりの負担や責務もあると思う。私自身、具体的な活動や指導的な活動もできない。組織としての基盤を作るためにまずは資金力が必要だと思うが、目指すべき姿のためにどれだけの会費が必要なのかかわからない。提示される金額が高額であればそこまでは難しいという事になると思う。組織は上部団体の決定にそって動いていくものだと思っているので方針が示されれば従っていかなければならないとは思っている。しかし、全国組織としてどうやっていくのかよく理解していない。個人的には各県において活動にばらつきがある状況では法人化というのは難しいのではないかと。(1)**

***法人化は難しいと思う。自分達の出来る事を、やっ
て行く事を大事にしたい。(1)**

***法人化には反対。(1)**

***取りまとめされた方向性については全く同感。全国組織の状況が分からないのに、どうこう言える立場ではないと考えていた。適切な方向にまとまって良かったと思う。(1)**

***鳥取県アド連に入会して、皆様の活動がとても刺激になる。もっと多くの県下の方に届けていけばさらなる会員獲得が出来ると思う。そういう活動をしましょ
う。(1)**

***鳥取県アドバイザーの会の高齢化が進んでいるので**

会員減少は免れない。県全体の会もできない状況のなか、全国の法人化に協力できるゆとりはないと考える。(1)

*法人化してやる事業の企画(研修会、イベント等)があれば収入も見込めるので賛成。明確にならなければ決定は留保。会員規定、役員構成、役員の任期については現状のままで、新しく事業の企画ができれば新設置する方向で。鳥取県アドとしては、県アドの企画事業がない現状では法人化せず、現状継続を第一に考える。現状はアド個人の活動で、他の組織活動の中でアドで研修したことが生かされていると思う。

今後は県アドとして県や社会福祉協議会の事業を引き受けてやる気構えと取り組みのための活動をやっていく準備をすることが求められているのではないかと。(1)

*私が「アド会」に入会した頃の楽しかった会のムードとは、だんだん違って来ている様に思う(時の流れでしょう)。それは大きな目標かも知れないが、私達が働ける範囲は小さなもの。賛成・反対は言えないが執行部のお考えに準じたいと思う。(1)



法人化に関する意見は、昨年4月の鳥アド通信 No87号でも、清水成真氏の意見書を掲載しました。今回、芳村さんの意見書が届いていますのでご紹介します。

さらにこの度、清水さんから「全日本青少年育成アドバイザー連合会に求められている課題」として問題点のまとめが意見書として提出されています。(清水さんからメール配信済み)メールを見ることが出来なかった方のために、冒頭部分だけですが、併せてご紹介します。

法人化について

芳村 恵子

私の意見としては、法人化反対です。

「今更、何を言っているか」と言われるかもしれませんが、法人化の話が出てからも、賛成という気持ちになかなかならず、よくよく考えてきたつもりです。今は最終判断の時期だと思います。

まず、私たちは国民会議で学び、アドバイザーと認定され、鳥取県のアドバイザーとして仲間入りさせて頂きました。その後、個人個人の活動を応援するという形の

組織の中で、自分の持っている力を発揮してきました。自分自身のスキルアップは、「思春期保健相談士」のフォロー研修で、活動は鳥取県青少年育成アドバイザーの名の下で、行ってきました。今後も活動を続けていくとして、私は果たして何年頑張れるかなと考えています。

頂いた資料に、国民会議の運動趣旨を受けつぎ、組織的な運動を展開する組織として法人化を図ることが必要とありました。今現在、全日本として私達をまとめ、法人化をと頑張ってくださいている方々には申し訳ありません。法人化にする手続きはそんなに難しいことではないように書いてありました。また「できない理由を考えるのではなく、できる方法を考える姿勢で」と書かれています。

しかし、その組織を作るより継続することの方が難しく、今後の後継者に重荷になるのではないかと思います。なぜかと言うと、他県の方の年齢は知りませんが、鳥取県では高齢者が多いこと、仲間を増やすことが現在でも難しいこと、また全国区になると会長の変更により事務局が移動せざるを得ない事、専任の事務員がいなければ到底さばけないと思うが果たしてできるかどうか、金銭的なことは・・・

法人になれば、箔が付き、しいてはアドバイザーになりたい方が増えるのでしょうか。今以上に、知名度が上がり活発な活動がしやすくなるのでしょうか。今以上に、会員に課せられる役割を全うでき(他県は分かりませんが)、組織に貢献できるでしょうか。

今のままでは、「鳥取県青少年育成アドバイザー」そのものが消滅しかねないと考えます。随分乱暴な言い方で申し訳ありませんが、今ここに活動している方々はいくつかの活動資格やベースがあるので、もし「アドバイザー」の名が無くなったとして、活動の内容に支障をきたすことはないようにも感じます。

今の連合会のままでは「青少年育成アドバイザー」としての誇りを持ち続けることはできないでしょうか。法人化しなければ、国民会議の思いは持てないのでしょうか。今は、せつかく研修を受けて頂いた方々の活動の場を作り、アドバイザーになったことの実感を持って個人の活動に繋げて欲しいと思います。

そのためにも、まず「足もとから」固めていくことが先決と考えます。

私の考えは狭いかもしれませんが、自分が活動することを踏まえて考えてみました。

全日本青少年育成アドバイザー連合会 法人化に対する意見書

鳥取県 清水 成真

全日本青少年育成アドバイザー連合会の法人化について、いよいよ議論がはじまりました。

この、山本顧問が調査された「法人化・組織対策委員会調査報告書」を中心に、今後の問題点についてまとめてみました。今後、全日本青少年育成アドバイザー連合会に求められている課題です。この課題について、一つ一つ回答していくことが必要だと意見をいたします。

- ・ 法人化すると、現在の活動と目標がどう変わるのかを明確にする事
- ・ 現在の活動目的・目標が、法人化すれば、どう活動しやすくなるのか、また目的が果たしやすくなるのか。説明が必要である。
- ・ 法人化すれば、その法人と個人アドバイザーのつながりがどうなるのか？
- ・ 法人化すれば、活動が活発になるのか？現在の活動とどう変わっていくのか？
- ・ 現在の全日本青少年育成アドバイザー連合会の活動指針や目的が、個人アドバイザーと繋がっていないことが指摘されている。法人化すればどう変わるのか？
- ・ 全日本青少年育成アドバイザー連合会が各県に対して積極的に協力・援助することが求められているのではないか。
- ・ 法人化に対して金銭的な問題をどう解決するか？
- ・ 法人化すれば、地盤が崩れかけている各都道府県アド連を救済できるか？
- ・ 法人化後、個人会員と県アド連と、全日本青少年育成アドバイザー連合会の関係はどうなるのか？
- ・ 全日本青少年育成アドバイザー連合会の法人化で、各都道府県アド連の加入は任意なのか？強制なのか？
- ・ 法人化した全日本青少年育成アドバイザー連合会の構成員は「各都道府県アド連」ではなく「個人会員アドバイザー」であるべきではないか？
- ・ 法人化した全日本青少年育成アドバイザー連合会は、個人会員のサポート・補助をしてくれるのか？

- ・ 現在の組織で出来ないものがあるのか？また、その出来ないものを法人化すればできるのか？
- ・ 法人化すれば、活動がどのように活発化するのか？
- ・ 法人化後、「各都道府県アド連」の立場をはっきりさせること。
- ・ 「法人化しなければならないこと。」の説明
- ・ 全日本青少年育成アドバイザー連合会の目的が、現実と乖離していることは、どう解決するのか？
- ・ 政治的な活動を、今後どう考えていくのか？
- ・ 各都道府県アド連の活動は、全日本青少年育成アドバイザー連合会の事業とは乖離している問題をどうするか？
- ・ 全日本青少年育成アドバイザー連合会の事業を推進するために、個人負担が大きくなる事はないのか？
- ・ 法人化よりもまず、各都道府県アド連の組織を強化することが大事だと思うが、法人化すれば各都道府県アド連の組織は強化できるのか？
- ・ 法人化すれば、個人会員は増えるのか？
- ・ 法人化に対する、「予算案」がつかれないのは何が問題なのか？

このような課題を一つ一つ回答する必要がある、それについて各都道府県アド連の会員が納得できれば「法人化」は一気に進むと思います。まずは、これらの課題を役員だけではなく、会員各位が共有して問題解決のために知恵を絞ることが必要だと考えます。

1月15日(土)に開催予定されていた第2回研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため延期となりましたが、人数制限をして臨時三役会が開催されました。

三役会では、研修会で協議予定だった「法人化についての聞き取り調査」の結果が協議されました。

以下、新事務局長による三役会の報告です。

鳥アド協議会 三役会の報告

(R4, 1, 25 於:上井公民館)

新 勝彦 事務局長

【山本顧問】

- ・ 全日本および各県の会長の意向は法人化に消極的であることから、「まず、法人化をしたいと考える県組織

が法人化すれば良いのでは…」と持ち掛けているが、その後の返事がない。

- ・全日本の組織が続かなければいけない。法人化を強引に進めると全日本アドの崩壊もおこり得る。
- ・今のままでは財源確保の問題がある。(会費の値上げか、どれ位か。各企業へお願いに行くのか)
- ・個人会員の発言権も大切にすなら「アドバイザー会」という名称も考えられる。

【山本顧問提案】

- 1、まず、アドの仲間を増やすことが最も重要。
- 2、SDGs について勉強し、できることから具体的に始める。
- 3、子ども家庭庁に「基本法」をいれさせるチャンス。

【三役会のまとめ】

- ・法人化に反対意見が多くを占めた。
- ・全国が法人化を強行するなら脱退も考え得る。
- ・全国の事務局の不安定な部分が心配(北海道・東京・会費未払い3県の脱会等)まず足元を固め、脱会するところをつなぎ止め、信頼関係の構築が望まれる。
- ・当面、今の取り組み(養成講座・通信教育等)をしつつ足元固め。
- ・各県は仲間を増やす取り組み、組織の充実を図ることが当面の課題ではないか。その後に法人化があるのでは。

なお、三役会に出席した役員からは、「鳥アドの結論としては簡単そうだが、ここまでに至った経緯や経過にも目を向けることが必要なのでは…」また、「個人的には現段階では反対であるが、早急に法人化するのではなく、まず、鳥取アド連の組織・活動など足元を固めながら時間をかけて継続審議をするのが良いのでは…」との感想も寄せられています。

松原さん

厚生労働大臣表彰 受賞

おめでとうございます！

湯梨浜町内を中心に読み聞かせ活動を行っているお話グループ「ゲー・チョコキ・パー」(松原厚子代表)が、20年以上にわたる活動が評価され、厚生労働大臣表彰を受けました。

子どもたちに絵本の大切さを伝えたいと保護者を中心に2001年に結成され、巨大絵本や手作り紙芝居、劇の披露など活動しています。

この記事は、令和4年2月16日 日本海新聞「はい！こちら通信部」に掲載されました。



副賞として、豪華なフォトフレームと名刺入れが贈られました。

原稿募集しています

代表者会議の報告、あるいは各市町村での催し・取り組み、各個人での活動、意見、この頃思うことなどなど、どうぞ気軽に SNS 感覚で話題をお寄せください。

～ 編集後記 ～

人生は、新しい船出とか順風満帆とか航海にたとえられることが多い。けれど、目的地があり、立ち寄る港と日時がきちんと決まっているのが「航海」で、目的地も立ち寄る港も日時も何にも決まってないのは、「漂流」なのだそうだ。

全日本アドの法人化は無事に「航海」できるのか。燃料は、食料は、乗組員は尽きないか…。 「航海」に出たことを「後悔」しないように、準備万端・慎重に…。

しかし、いつの時代にも「坂の上の雲」を目指す有志たちがいる。坂の傾斜も場所も雲の色も様々でも、そういう方々によって何かが変わっていきけるのだろう。

一方、私は、坂を転がって登れない「坂の下の石ころ」だ。何となくゴロリンころろ溜まっていて、何と動きの重いことか。せいぜい航海中の船底に穴をあけないようにしなくてはならない。

